

トーキョーアーツアンドスペースレジデンス 2021 成果発表展



A Scoop of Light

2021年7月3日(土)～8月9日(月・祝)

トーキョーアーツアンドスペース本郷

— 世界の街を舞台に滞在制作を行った、国内外のクリエイターたちによる成果発表展

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo Festival の一環として「トーキョーアーツアンドスペース レジデンス 2021 成果発表展 A Scoop of Light」を実施します。

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、2006年よりレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス」を開始し、東京や海外の派遣先を舞台に、ヴィジュアル・アート、デザイン、キュレーションなど様々な分野で活動するクリエイターたちへ滞在制作の機会を提供しています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響で海外への移動が困難となり、レジデンス・プログラムも延期や中止が相次ぎました。派遣クリエイターたちは、図らずも派遣先から移動ができなくなったため自主的に現地滞在を延長したり、コロナ禍で世界が緊迫している中渡航した滞在先で苦難に直面したり、渡航自体を断念せざるを得なくなったりしました。また、海外からの入国制限により、TOKAS では初めてとなるオンライン・レジデンスを実施しました。本展では2019年度、2020年度にレジデンス・プログラムに参加した国内外5名のクリエイターによる成果を紹介します。

■ 展覧会概要 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、変更となる場合があります。

展覧会名: A Scoop of Light [トーキョーアーツアンドスペース レジデンス 2021 成果発表展]

クリエイター: 船井美佐、菊地智子、Yuju、ユリアン・ヴェーバー、パディ・ダルル

会期: 2021年7月3日(土)～8月9日(月・祝)(6月26日～8月9日の会期が変更になりました。)

会場: トーキョーアーツアンドスペース本郷(東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00(最終入場は30分前まで)

休館日: 月曜日(8月9日は開館)

入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

提携都市/機関: クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン、ベルリン市(ドイツ、ベルリン)、セマ・ナンジレジデンス(韓国、ソウル)

ウェブサイト: <https://www.tokyoartsandspace.jp/>

■ 関連イベント

詳細は TOKAS ウェブサイトで発表します。

<お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

目まぐるしく更新される情報と技術の向上により、物理的距離を凌駕するかのように速く動いていた日常が、突如停滞した社会へと一変しました。図らずも世界がパンデミックによりひとつとなり、同時に分断されたのです。

世界各地の提携機関とレジデンス・プログラムを実施している TOKAS でも、2020 年はこれまでとは違う時間を過ごす 1 年でした。今回紹介するアーティストたちは、移動や物理的な交流を制限された状況下において、それぞれ異なる条件でプログラムと関わり、本展への参加となりました。

本展に参加するアーティストたちは、社会のはざまに埋もれていたかもしれない現実に照準を合わせ、そこに光を当てることで、実際にいま私たちが暮らす世界に何が起きているのか、どう対峙していくべきなのかを探り出そうとしています。異なる社会で生きる人々の声に耳を傾けたり、自身の身の回りの気づきを紡いだりした彼らのさまざまな経験が、作品として共有されることで、新たな明かりを灯すかもしれません。

彼らが灯した一掬いの光によって、私たちがこれまで目を向けてこなかった世界—分断や明確な境界がなく、私たちからひとつづきのところにある場所—が可視化され、眼前に示される。そこには何もなかったのではなく、見えていなかっただけの事実が、光を受けて空中に漂い煌めく塵のように現れ、私たちを取り巻いていたことに気付かせてくれるでしょう。

■ **参加クリエイター／広報用画像** ※この他にも広報用画像を用意しております。広報担当までお問い合わせください。

船井美佐 | FUNAI Misa

二国間交流事業プログラム<ベルリン>

※新型コロナウイルスの影響により派遣中止

当初計画していた「ドイツの視点から日本を考える」ために、これまで蓄積してきた思考の断片を、さまざまな素材を用いてインスタレーションに表します。個人的な家族の記憶と経験からくる衝動をもとに過去から続く時間、歴史、文化、アジアの近代化、女、家族、社会、生に関する考察とそれらの未来について考えます。



1.《Paradise / Boundary : Somewhere not here》2019
ミクストメディア

【プロフィール】東京都を拠点に活動。2001年筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。主な展覧会に「神宮の杜芸術祝祭」(明治神宮、東京、2020)、「Distortion」(un petit GARAGE、東京、2020)、「Paradise/Boundary」(Fidalga、ブラジル、2019)、VOCA展(上野の森美術館、東京、2009、2010)など。

菊地智子 | KIKUCHI Tomoko

二国間交流事業プログラム<ソウル>

2019年5月～7月滞在

過去のトラウマや、それを乗り越えどう生きるか、他人の苦しみをどう分かち合うかを主題に、韓国在住の北朝鮮人や、北朝鮮人と中国人の両親のもとに生まれた子供たちの物語をとおして考察するマルチスクリーンの映像作品を展示します。新型コロナウイルスの影響で韓国から移動できなくなった菊地が、現地での交流を進めて新たに発見した「境界」や「分断」を考察します。



2.《Undulation on the borders》2021
ビデオインスタレーション

【プロフィール】東京都を拠点に活動。1996年武蔵野美術大学空間デザイン学科卒業。主な展覧会に「CROSSING」(インチョン・アート・プラットフォーム、韓国、2020)、「Frequencies of Tradition」(Guangzhou Times Museum、広州、2020)など。

Yuju

二国間交流事業プログラム<ベルリン>

2020年10月～12月滞在

派遣先のベルリンで、自らが経験したアジア人差別をきっかけにこの問題に向き合うことを決めた Yuju は再度ベルリンに活動拠点を移し、社会問題を直視する作品制作に取り組んでいます。本展ではベルリンを拠点に活動しているアジア人権団体 Metoo-Asians をとおして、ドイツ国内で表面化するアジア人差別問題にスポットを当て、その差別の現実を社会に訴えかける映像作品を展示します。制作協力: Metoo-Asians



3.《記憶された揺動》2020
2チャンネル・ビデオインスタレーション

【プロフィール】韓国、ベルリンを拠点に活動。2019年日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了。主な活動に「First-time Filmmaker Sessions」(国際映画祭、Global Network (オンライン)、2019)など。

ユリアン・ヴェーバー | Julian WEBER
 二国間交流事業プログラム〈ベルリン〉
 2021年1月～3月
 ※オンライン・レジデンス

美術とパフォーマンス・アートが交差する独自の作品制作を行っているヴェーバーは、「地球外生命体に向けた求愛ダンス」というテーマに取り組みました。本展では撮りためたビデオ・クリップをもとにフェイク・ドキュメンタリーを発表します。

制作協力：MIRA 新伝統

【プロフィール】ベルリンを拠点に活動。2016年 de Theaterschool(現アムステルダム芸術大学演劇・舞踊学院)修士課程修了。主な活動に「Allonge」(Tanzfabrik、ベルリン、2020)、「streaming」(バンコク・アート&カルチャー・センター、バンコク、2019)。受賞歴に「Berlin Art Prize」(2015)。

バディ・ダルル | Bady DALLOUL
 芸術文化・国際機関推薦プログラム
 2021年2月～5月滞在

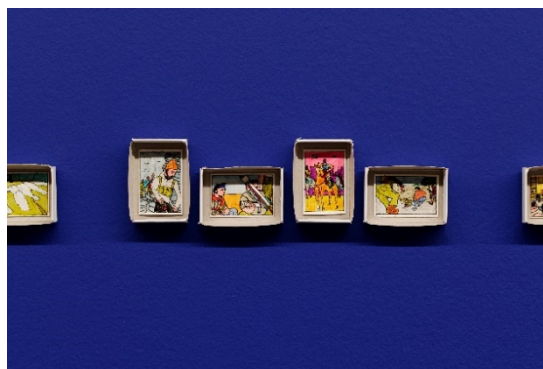
ダルルは、想像と現実を結びつけ、テキスト、ドローイング、ビデオ、オブジェなどを用いた作品を通じて、社会、政治、歴史における重要な問題を提示しながら、個人史や物語を織り交ぜた歴史編纂に挑戦しています。本展では東京在住のアラブ圏出身者へのリサーチや、異邦人としての視点から見えてくる表象としての日本や祖国をもとにした作品シリーズを展開します。

【プロフィール】パリを拠点に活動。2015年パリ国立高等美術学校卒業。主な活動に、「シアター・コモンズ' 21」(東京、2021)、展覧会に「Notre monde brûle」(Palais de Tokyo、パリ、2020)、「Orientalism」(Institut Valencià d'Art Modern、バレンシア、スペイン、2020)など。ヴィラ九条山の2021年レジデントアーティスト。

協力：ヴィラ九条山/アンスティチュ・フランセ日本



4.《the bony labyrinth vol.2》2018[参考画像]
 時間を伴うパフォーマンス/インスタレーション
 粘土、自動車、テレビ、マイクなど
 ©Bea Rodrigues



5.《A country without a door or a window》2016-
 マッチ箱ドローイング
 © Aurélien Mole

Fax 番号: **03-5245-1154**

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 5

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、武智

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp